

**平成24年度 事務事業評価シート**

事業の概要	事務事業名	緑化推進事業						担当部	都市建設部			
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	みどり公園課			
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降			担当係	花と緑推進係		
	総合計画 分野別計画	主目的	5 都市基盤		27 公園・緑地・緑道		2 緑の保全や創出を進める					
		副目的	27-1									
	予算区分	款	8	項	4	目	4	大	4	中	1	
	根拠法令・個別計画											
	実施・運営方法 ※費用合計に占める 経費の内訳(割合)	直接実施・ 運営	8 %		委託	64 %		助成	28 %			
	目的 (対象をどの様な 状態にするのか)	小牧市を緑とやすらぎのある美しいまちにすることを旨とし、市民の緑化意識の高揚と市民自らによる緑化推進を促す。										
	内容 (手段)	<p>○23年度実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小牧市緑化推進協議会へ緑化事業を委託している。 (協議会の具体的な活動としては、緑化木の配布、緑の教室、緑化施設見学など。) (委託料 7,900千円)</li> <li>・みどりの少年団活動を支援するため補助金を交付している。 (補助金 70千円)</li> <li>・小牧市生け垣設置奨励事業補助金交付要綱、屋上等緑化奨励事業補助金交付要綱に基づき、市民からの申請により補助金を交付しているが、23年度の申請は0件であった。 (補助金 0千円)</li> <li>・あいち森と緑づくり税を財源とした小牧市都市緑化推進事業補助金を新設し、優良な緑化事業の経費の一部を補助し民有地の緑化を推進する。 (補助金 3,402千円)</li> </ul> <p>○24年度実施内容</p> <p>次世代の緑化意識高揚を図るため、小中学校との連携に取り組んでいく。</p>										
受益者負担	無											

			単位	H21決算額	H22決算額	H23決算額	H24予算額	
	コスト	費用	直接経費		千円	8,306	12,908	11,372
正職員			従事者数	人	0.20	0.20	0.20	0.20
			人件費	千円	1,063	1,063	1,063	1,063
その他職員			従事者数	人	1.00	1.00	0.00	0.00
			人件費	千円	1,544	1,479	0	0
費用合計			千円	10,913	15,450	12,435	21,870	
対前年比		%		141.5	80.4	175.8		
財源	一般財源		千円	9,983	10,315	9,033	11,870	
	国・県支出金		千円	0	5,135	3,402	10,000	
	その他財源		千円	930	0	0	0	

業	活動指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	緑化推進協議会活動回数	回	目標		14	15	14
実績				15	15	14	
生け垣設置・屋上等緑化奨励事業補助金交付件数	件	目標		15	8	8	8
		実績		4	4	0	
小牧市都市緑化推進事業補助金	件	目標			—	5	5
		実績			3	1	
績	成果指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	緑化推進協議会会員数	人	目標		1,050	1,050	1,050
実績				1,073	1,076	989	
民地緑化面積 (民有地緑化補助により緑化された面積)	m2	目標		300	150	1,010	1,010
		実績		62	452	154	

事業の自己評価	事業の達成状況	緑化推進協議会の会員が減少し、補助事業の利用者数も減少傾向である。平成22年度に小牧市都市緑化推進事業の創設により大きく増加した民有地緑化面積について減少となった。
	事業実施における課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑化推進協議会は、市民との協働の核となる組織として、充実させていく必要がある。</li> <li>・緑の少年団は、陶小学校から他の学校への広がりが無い。</li> <li>・生け垣設置や屋上等緑化の補助は、近年、利用者は少ないものの、本市の緑化推進のみならず環境や景観に寄与する事業であるため継続する。</li> <li>・事務の効率化のため本事業と花修景推進事業との一元化を検討が必要である。</li> <li>・本事業を含む本市の緑化施策は、長期的プランである「緑の基本計画」を基に進めていく。</li> <li>・補助事業のPRを図るためのチラシを作成したが、充実した内容とするための検討期間が長期に亘り、完成時期が遅れたため、PR期間が短くなってしまった。</li> </ul>
	事業を縮小・廃止したときの影響	市民のみ、企業のみでの緑化推進は限界があり、事業を廃止すれば、市内の緑化推進が減退する恐れがある。
今後の事業の方向性	方向性の判定	現状維持
	判定理由	緑化推進協議会の会員数は、概ね1,000人程度で推移しており、協議会事業は一定の成果が上がっていると考えられるため。
	改善案等	<p>緑化推進協議会が市民活動団体の自主的活動に対しどのような支援ができるかを検討するとともに、市民活動団体との連携、団体間の連携を深める仕組みづくりに取り組んでいく。また、次世代の緑化意識高揚を図る取り組みについても、現在行っている緑の少年団への支援方法を見直し、より多くの小中学校と連携し、支援していく仕組みを再構築する。</p> <p>花修景推進事業は、事業の効率化のため公園緑地整備事業と一元化していくこととした。補助事業は、完成したチラシを活用し積極的なPRを行っていく。</p>

二次評価	方向性の判定	判定理由
	現状維持	一次評価のとおり。平成23年度外部評価を受けた改善が進められており現状維持とする。